

令和 4 年度 高尾山学園学校経営報告書

I 学校経営評価の方法

1:教職員による学校経営評価

- ・学習指導、生活指導など教育活動全般に関する評価アンケートを前期後期各1回実施
- ・教職員による学校経営計画の重点目標に対する評価アンケートの実施と考察
- ・保護者及び児童・生徒によるアンケート結果に対する考察

2 保護者及び児童・生徒による学校経営評価

- ・教育活動全般に関する評価アンケートを前期後期各1回実施

3 学校運営協議会委員による学校経営評価

- ・学校運営協議会においてアンケート結果と考察を示し意見をいただく

II 評価アンケート集計結果とその考察の概要

各項目は、引き続き「分からない」という選択肢を設定し5段階で評価。前後期を通じたアンケート考察の概要は、以下の通りである。

1 保護者及び児童・生徒による教育活動全般に関する評価の概要

① 教育方針の周知

- ・肯定的意見が大半である。

② 特色ある学校づくり(少人数指導・居場所づくり・体験活動・SSP・地域との連携)

- ・通常の学校活動に近い形で運営できており肯定的な意見が多い。転入時にはコミュニケーション力が不足気味の子が多くSSPの必要性だけでなくきよたき教室併用の必要性を感じている。

③ 小中一貫教育

- ・コロナ禍ではあったが通常に近い行事としたため大きな落ち込みはない。普遍的に子供たちも楽しみにしており保護者の関心も高い。特に冬迎祭は4年ぶりとなったが全体的に評価が高かった。

④ 人権教育

- ・概ね高い結果であった。SSPも学年ごとに定着してきており教育目標の一つである「気持ちを感じあえる人になろう」についても浸透している。

⑤ 学級経営

- ・概ね落ち着いて学習できると回答している。高尾タイムは完全に定着した。

⑥ 学習指導

- ・概ね良い結果であるが、学年が上がるにつれて意欲的な子が多くなる一方、学年が下がるにつれて学習面での苦手さを感じる子も多い。教科の特性や単元の特性に合わせICTはChromebookとiPadを使い分けるなど工夫も全ての教科で行われている。

⑦ いじめ防止への対応

- ・概ね良好であるが、本校の教育目標の一つとして「気持ちを感じあえる人になろう」を設定しており、教職員も教育目標を意識しつつ対応をしている。普段の情報交換の中で気になる子どもは多いが重篤ないじめの状態につながるケースはない。ただし前籍校でのことや体験を引きずっているケースは相変わらず多い。

⑧ 生活指導(全般・教育相談・安全指導)

- ・全ての事項で心に寄り添うことを主眼に活動しており、職員にも大分浸透している。教育相談は登校支援チームとの連携をしているが病院からの紹介など難しいケースや SSW が関わっているケースも相変わらず多い。

⑨ 環境整備

- ・「僕らの八王子」を BGM とした清掃活動&美化委員会活動がやや停滞気味であるので次年度は改善をしたい。全ての授業で指導を行い後片付けが出来る児童生徒がほとんどである。

⑩ 情報提供

- ・継続してメールシステムとHPに加えマチコミを活用して保護者へ通知し、手紙も併用している。さらに連絡が取りにくい保護者へは個別に電話連絡をしている。学校に通えていない子供の家庭には家庭訪問や郵送などで対応している。今後も ICT を活用した連絡を中心として丁寧な対応を継続していきたい。

⑪ 適切な評価

- ・本校では中学2、3年生でコース別学習を取り入れており、子供たち一人ひとりの心に寄り添いながら指導を行っている。小学部は未学習や発達に偏りのある子も増えており継続して対応を検討していきたい。

☆保護者アンケートの回答率は毎年向上してきたが相変わらず 5 割程度で高止まりしており、活動的な保護者は少ない。毎月転入も定着してきているがSSWの抱えるケースの見学者も年々増えている。対応の難しい子も多く転入に繋がるまでいかず、やまゆり教室で止まってしまうケースも増えている。保護者の期待に応える一方、不安定な子供も増えており、学運協や登校支援室と連携して対策を検討し継続して対応していく必要がある。

2 教職員による学校経営計画の重点目標に対する評価の概要

- ① コロナの影響は減少している。全体的に数値は安定しており本校の特性を意識しつつきちんと活動が来ている。
- ② 面談・学校公開・保護者会への参加率は高止まり傾向であり、メールでしか連絡が取れない保護者も一定数いる。
- ③ SSPは常に内容を吟味して実施することが定着している。GIGA スクールに関しても校内研修で取り上げ職員意識を高めている。ICT についてはメディアルーム設置し社会科で大いに活用できている。
- ④ 相談体制については登校支援チームとの協力関係が更に向上しており良い連携が出来ている一方、心理相談員がメンタルダウンすることもあった。難しいケースは相変わらず多く心理相談員のケアも必要と感じている。

☆不登校特例校の視察が大変多くなっており多少なりとも校務に影響が出ている。一方知名度が上がることで教職員異動についても公募も多くなっている。本校の様々な取り組みに関する認知度はかなり上がってきており職員が不登校特例校としての在り方や意義など共通理解向上が課題である。職員全体が不登校の拠点校として相応しい活動ができるようになっているが遊びと学びとのバランスをとり学習意欲向上にも努めていきたい。

Ⅲ 学校運営協議会委員による学校経営評価

アンケート結果と考察に関する意見として特に大きな課題は指摘されておらず、改善結果を踏まえ概ね高い評価を頂いた。オンラインを活用しての学運協も定着できた。

- ・自信に満ちた授業をしていると感じる。全ての先生方の努力に敬意を表したい。
- ・オンラインでの学運協はありがたい。対面とのバランスを取りながら継続して欲しい。
- ・不登校特例校のモデル校にふさわしいと感じている。
- ・地域との連携もうまくやれている。

などのコメントや助言をいただいた。

Ⅳ 令和5年度の教育活動への反映

- ① 学運協委員は更新の年であり、男女バランスも 50:50 としてより広域な地域との交流を主眼に置いた構成である。新委員もPTA連合会の代表者を入れるなど市全体での理解を深め学校経営に関する意見をいただいていく。学運協主催の「放課後カフェ」も企画推進していく。
- ② 「きよたき教室」は利用者が着実に増加している。教員一新となるが指導体制を更に充実させたい。
- ③ 転入学については研究主事と連携し校内体制の強化に努め取り組む。
- ④ キャリア教育の観点からも外部人材を取り入れ勤労の意義を子供たちに伝える場を継続する。
- ⑤ コロナの影響が少なくなる中、対面を中心としたコミュニケーション力向上に力を入れていく。
- ⑥ 教職員の資質向上を図るため、引き続き研修の計画的な実施を図り、児童・生徒理解と指導力の一層の向上を目指す。特に特例校との交流を希望する学校からの研修は積極的に取り入れたい。
- ⑦ 近隣大学・高校・地域住民との交流を通じて、児童生徒・保護者・教職員との関わりも深めていく。
- ⑧ 文部科学省中央教育審議会の臨時委員として不登校特例校に関する意見や情報を発信したい。

以上